

ルジア・チャリヤパン 研究員（タイ）



はじめまして。私はタイから来ましたルジア・チャリヤパンと申します。私はタイの防災局で災害被災者を支援するソーシャルワーカーとして働いています。私が勤める部署は、主に災害に関する課題解決のための、財務および予算の管理等を行っています。

防災局は 2002 年に内務省の傘下に設立され、全ての省庁を通じて、災害に関する管理や運営を実施する主たる機関として運営されています。また、防災局は活動の一つとして災害直後における速やかな被災者支援を行うことを目的としています。この活動は、被災者の負担を軽減させるために、官民の関係機関が適切に連携し実施できるように進められます。さらに、被災者に対する食料、医療、水などの救援物資の提供や、仮設住宅の設置、感染予防、医療対応などの支援も対応しています。

近年タイで発生している自然災害は、地球規模の気候変動や変化に影響を受けて、被害が拡大化しています。この原因のひとつとして、未成熟な都市計画や、多くの自然破壊が考えられます。一方で、近年では先進的なテクノロジーが私たちの日常に浸透していますが、これに伴って自然災害に対する注意力も欠如してきています。これら多くの問題により、自然災害が多くの人命や貴重な財産を奪っていると考えられます。

客員研究員として日本に滞在する間、私の研究テーマとして、日本の支援物資の管理および運営システムについて学びたいと思います。皆さまご存じの通り、2011 年にタイのバンコクを中心に大規模な洪水が発生しました。この洪水被害においては、多くの機関によって支援物資が提供されましたが、物資の提供にあたってはたくさんの混乱が引き起こりました。

タイの国家防災計画（2010-2014）においては、支援物資の運営システムについて規定されています。この防災計画においては、防災局が災害時において国際緊急支援を受け取り、適切に分配するべき機関として明記されています。しかしながら、現在支援物資の受け取りおよび提供のプロセスがデータベース化およびシステム化されておらず、運営に支障をきたしています。担当部署レベルでさえも、支援物資は個々の職員によって輸送が検討され、独自でマネージメントされています。そこで、私が今後行う調査業務が、これら問題を解決させるためのシステムの構築、被災者への適切な支援、物資の管理運営などに少しでも寄与できればと思います。

日本は防災の分野において多くの知識を持っています。東日本大震災などの経験に基づいて構築された、災害管理システムや減災活動などの優良事例について、滞在期間中に学びたいと思います。最後に、今回日本における客員研究員の機会を頂いた ADRC に感謝致します。研究活動の他に、日本の文化や社会を学びたいと思います。また、今回ご支援頂く多くの皆さまにも、合わせてここにお礼を申し上げたいと思います。